グローバルレスポンシブルビジネス

－　コミュニティ　－

様々なコミュニティと協働し、地域社会の発展につながる社会貢献活動を推進します。また、事業活動との相乗効果を重視し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供するとともに、社会への貢献を通じて、社員自らのスキル開発や富士通で働くことへの誇りを向上させていきます。

© Fujitsu 2022

コミュニティ

目標

ありたい姿

地球社会への帰属意識を有する社員が、社会課題への共感性を高めて活動を共創することで、社会のみならず経済・ビジネスによいインパクトをもたらしている。
創出したインパクトを評価・分析、発信し、さらなる価値を社会に提供している。

2022 年度目標

企業文化および社員のマインドセット変革への貢献
KPI： 社会課題に関連した社会貢献活動に参加した従業員数の増加率
ニューノーマル下において、2019 年度比 +10%

コミュニティ活動の考え方

富士通グループは、我々にとって重要なステークホルダーの 1 つである地域社会と協力しながら、特色ある活動を国内外の各地で展開してきました。これからは、2020 年に新たに定めたパーパスの実現のため、富士通グループの国内外の活動をより一体的に推進し、これまでに地域で築いてきた信頼をグローバルなものに高めていきます。そして、社会が抱える課題の解決のために、我々のビジネスの強みを最大限に発揮できる分野を中心に、より大きな価値創造を進めていきます。さらに、国内外での活動が創出したインパクトを定量的に把握する体制を整備・拡充し、活動を見直し改善するサイクルを実現することで、大きな価値を創出し続けます。

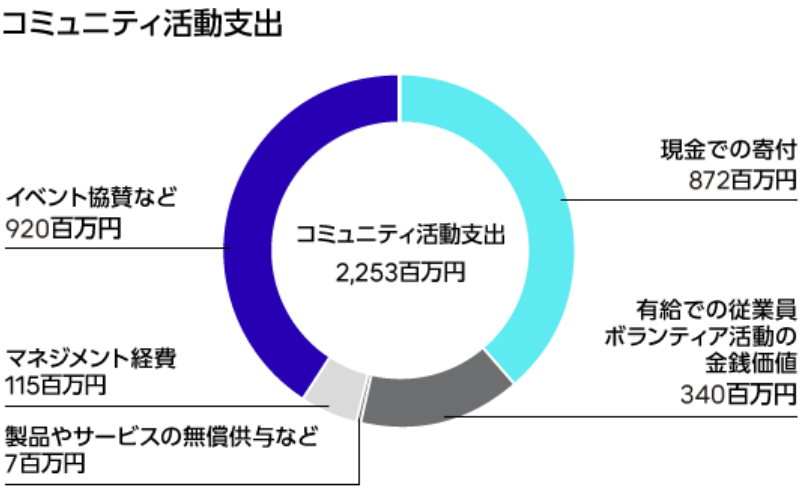
重点注力分野

2021 年度実績

社会貢献活動に関わる支出

富士通が 2021 年度に社会貢献活動に関わる費用として支出した金額は、以下のとおりです。

© Fujitsu 2022



※富士通および国内外グループ各社の活動支出をもとに算出

社員のボランティア活動支援

富士通グループは、社会に対する社員一人ひとりの積極的な貢献活動を支援するため、ボランティア活動支援制度を整備しています。また、各事業所が所属する地域コミュニティの発展に貢献するため、地域の特性に沿った各種活動プログラムを展開しています。

富士通は青年海外協力隊／シニア海外協力隊参加のための休職制度（最高 3 年間）や、年 5 日・最高 20 日まで積立可能なボランティアのために活用できる休暇制度を設けています。2021 年度には、156 名が積立休暇を取得し（延べ 750 日）、ボランティア活動を行いました。（富士通および国内グループ各社実績）

富士通グループの取り組み（活動事例）

「SDG 3 すべての人に健康と福祉を」に貢献する富士通の取り組み ーあらゆる人の可能性を拡張し続けられる世界をつくるー

富士通は身体や精神、五感、人との関係を拡張し、制約をはずして誰もがイキイキと活躍でき、人々の可能性を最大化し続けることができる世界を実現します。

キャンプ・クオリティ - がんを患う子どもたちへの支援

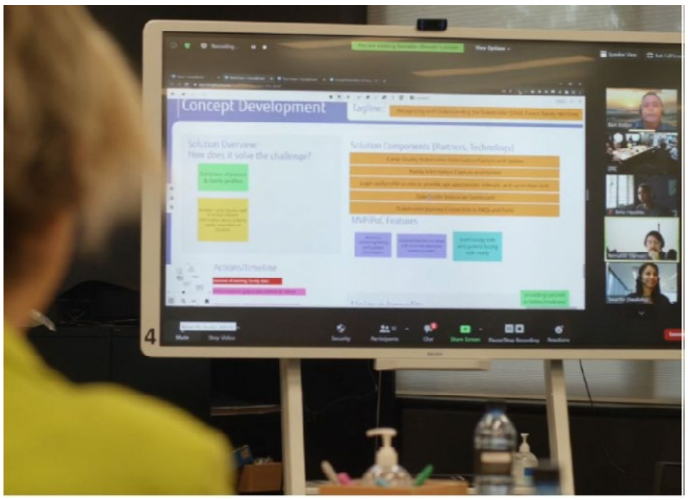
がんの診断は、関係するすべての人にとって大きな痛手であり、特に幼い子どもたちにとって困難なものです。オーストラリアで最も認知され、敬意を集めている慈善団体の一つである「キャンプ・クオリティ」は、子どもたちへの支援や情報提供を行うサービスやプログラムを提供しています。

 © Fujitsu 2022

新型コロナウィルスの流行により、対面のサービスやプログラムが実施できなくなった際に、キャンプ・クオリティは長年のパートナーである富士通オーストラリアと協力し、富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター（DTC）で人間中心設計のワークショップを開催しました。ワークショップでは、がんと向き合う子どもたちの関心を高め、力を与えるために、教育アプリにインタラクティブな要素と拡張現実を加えるというアイデアの実現性を模索しました。このアプリは、後に富士通イノベーション・インキュベーター・プログラムの一環として共同設計され、ポーランドにあるグローバル・デリバリー・センター・オブ・エクセレンスのジェンダーバランスのとれたチームによって開発されました。

キャンプ・クオリティにより 2 万人の子どもたちに必要な情報を提供できるようになりました。

インタラクティブな教育アプリ「Kids' Guide to Cancer」は、すべてのユーザーが無料で利用することができます。子どもたちががんに関してよく抱く質問に答え、他にも病院や薬、治療、がん患者支援者など、がんに関する様々な情報を提供しています。音声やテキスト情報だけでなく、アニメーションのストーリーと拡張現実のキャラクターが、アプリに命を吹き込みます。さらにこのアプリは、キャンプ・クオリティの他のサポートサービスである電話カウンセリングや小学校のがん教育プログラムなどを大人向けにも提供しています。



Co-creation ワークショップ

「SDG 4 質の高い教育をみんなに」に貢献する富士通の取り組み ー教育を通じて未来をつくるー

富士通の強みである ICT の分野にフォーカスし、未来を担う子供たちがつながり学ぶ場を作りだします。

ろう者と健聴者が共に楽しむ未来の実現　－「Ontenna」プログラミング教育環境の無償公開（全国のろう学校をはじめとした小学生向け体験型プログラミング学習の提供）

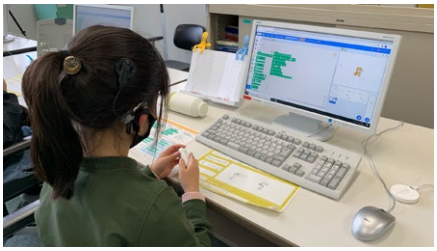
聴覚障がい者が音を振動や光で感じることができる「Ontenna（オンテナ）」の開発、導入に取り組んでいます。Ontenna は髪の毛や耳たぶ、襟元や袖口などにつけて振動と光によって音の特徴をからだで感じるユーザーインターフェースです。（音を振動や光で知覚する身体装着装置に関する意匠が、公益社団法人発明協会主催「令和 4 年度全国発明表彰」において「恩賜発明賞」を受賞）

現在、約 8 割のろう学校に無償で提供し、発話練習やリズム練習、STEAM 教育などに活用されています。さらに全国のろう学校や教育機関で活用できるよう、自身でプログラミングが可能なアプリケーションを開発し、反応させたい音の大きさに応じて Ontenna の振動の強さや光の色を簡単にカスタマイズできるようにしています。これにより、従来の ICT 教育だけでは実現できなかった質の高い教育コンテンツが作成でき、また聴覚障がい者の皆様に新しい音の世界を感じていただくことができました。Ontenna を使ったプログラミング教育に興味のある学校・教育機関を対象とした無償貸出やプログラムのレンタルによって、より多くの人が触れられるようにすることで社会のダイバーシティの理解促進にも貢献しています。

© Fujitsu 2022

Ontenna 装着イメージ

振動の強さや光をカスタマイズ可能



ろう学校での実践活用

Work X – バーチャル職場体験 Virtual Work Experience

テクノロジー業界における人材の多様性と社会的流動性を支援するためには、学生に無料で利用しやすい職場体験を提供することが不可欠です。職場体験により、貴重かつ実践的なスキルを身につけ、業界を経験し、学生が卒業後に有利なスタートをきることができるようになります。富士通は、イギリス全土で事業を展開する大手テクノロジー企業として、学生の成長を支援し、STEM（注 1）分野でのキャリアを促進する上で重要な役割を果たします。 職場体験を通じて、地理的な場所に関係なく、全国の学生に公正で平等な職場体験プログラムを提供し、次世代の多様な技術者の育成に貢献をすることを目指します。

このプログラムを実現するために、当社は学生向けにオンライン職場体験プラットフォームを提供する Springpod とパートナーシップを結びました。Springpod は、当社に代わって採用プロセスを管理し、安全保護と GDPR（注 2）の要件が満たされていることを保証するための支援を行います。当社の各分野の専門家により、学生が IT 業界に魅力を感じ、テクノロジーが社会に与える影響について実践的な理解を深められるようにしました。

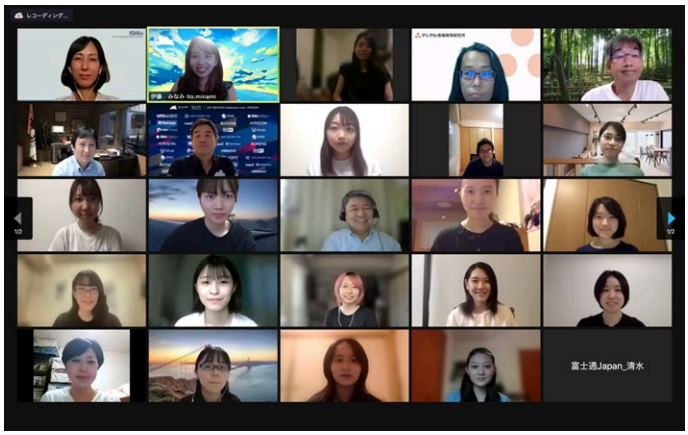
今後、年間を通じて 3 つのグループの学生を受け入れ、各グループには最大 800 名の学生の参加を想定しています。この活動が、イギリスの次世代の学生に刺激を与え、将来のデジタル人材を育成するための絶好の機会となることを目指していきます。

（注 1） STEM：Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）
（注 2） GDPR：General Data Protection Regulation（EU 一般データ保護規則）は、個人データの保護やその取扱いについて詳細に定められた EU 域内の各国に適用される法令のこと

女性の社会進出に関する課題解決への貢献 - ICT コンソーシアムの運営

Society 5.0 時代を牽引する高度情報化した女性リーダーを産学一体で育成していく取り組みを行う「女子大学生 ICT 駆動ソーシャルイノベーションコンソーシアム」は、「全ての女性が、ソーシャルイノベーションを起こせる社会へ」をビジョンに、ICT 技術に対して前向きな学生と企業の交流を創出して、女性の社会進出に関する様々な課題の解決に挑戦しています。

2021 年度は、協賛企業のサービスを利用した勉強会や学生交流イベント・学生企画イベントを約 60 回開催し、のべ 330 名の女子大学生が参加しました。富士通グループはアプリ開発におけるクラウドサービスの提供やプログラミング授業実施の他、アイデアソンや地方自治



オンラインイベントの風景

 © Fujitsu 2022

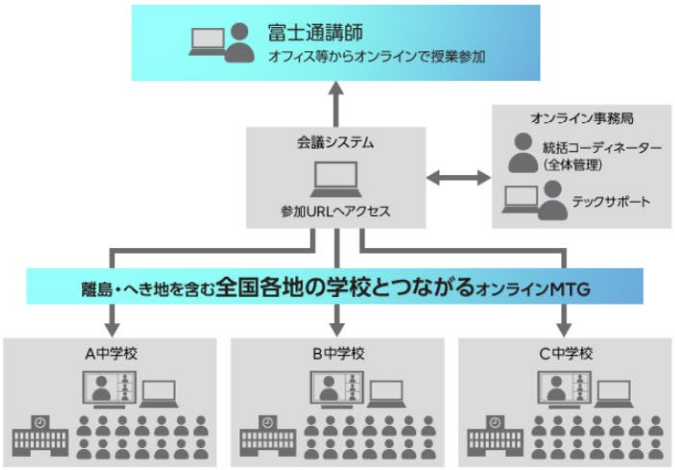
体へのアプリ開発提案、就職活動に関するイベントなどを実施することで、これからも、高度情報社会におけるイノベーションを支援するための取り組みを進めていきます。

中学生がデザイン思考で SDGs を考える ～社員が作ったプログラムでオンライン授業を実施！

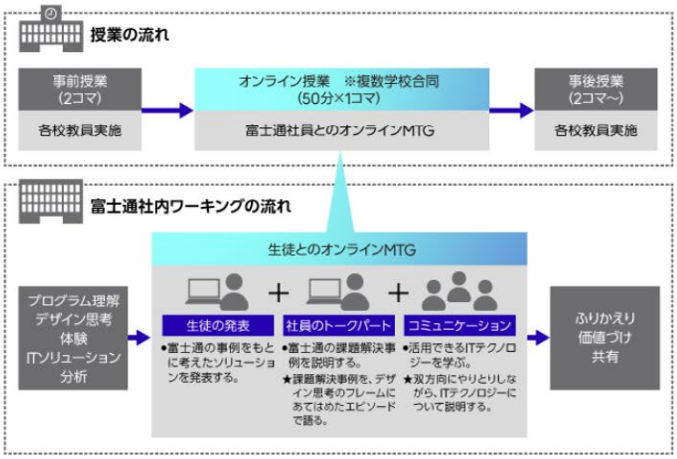
次代を担う子供たちの未来社会を創造する力の育成を支援する目的で、富士通が商品開発や社会課題解決に活用しているデザイン思考を学校現場で求められる「社会とのつながる学び」に活かしたオンライン授業を実施しています。2021 年度は、全国の中学校より 207 名の生徒が参加しました。この授業は、富士通社員と生徒がオンラインミーティング形式にて、富士通のソリューション事例を踏まえた教材を活用し、中学生にデザイン思考を伝えることによって SDGs の目標である社会課題の解決方法やその考え方に触れる学びを体験できる流れとなっています。授業当日は、社員と各学校が 3 つの社会課題に分かれ、代表生徒が事前授業を通して考えた解決方法を発表し、それに対して社員がコメントするなど、富士通の解決事例の紹介を通し中学生とコミュニケーションを図りながら授業を進めました。

この授業を通し、デザイン思考を使って考えることで、自分たちの立場をはっきりさせ、その人の「だったらいいな」を整理する中から、新しいアイデアがたくさん生まれました。さらに、いくつものソリューションが世の中で使われていることを知ったことで、子供たちの中にも自分たちのアイデアが実現できるのではないかという意識が広がりました。

オンライン授業の仕組み



オンライン授業の流れ



 © Fujitsu 2022

「SDG 13 気候変動に具体的な対策を」に貢献する富士通の取り組み ーサステナブルな世界を作るー

富士通は「多様な価値を信頼でつなぎ、変化に適応するしなやかさをもたらすことで、誰もが夢に向かって前進できるサステナブルな世界をつくる」という決意を込めて新事業ブランド「Fujitsu Uvance（フジツウユーバンス）」を策定し、「Fujitsu Uvance」の下、サステナブルな世界の実現に向けて取り組んでいます。

Fujitsu We Care #2017- 2021 -タイ植林プログラム

「Fujitsu We Care #2017-2021」 は、Fujitsu Thailand、タイ PTT 植林研究所（PTT Reforestation and Ecology Institute）、パヤウナイサブディストリクト行政機構（Pa Yup Nai Subdistrict Administrative Organization）の 3 団体の協力によって実現した 5 年間の植林プログラムです。

この 5 年間のプログラムでは、ラヨーン県プラセー川流域の学校に隣接する 4000 平方メートルのエリアに、多年生植物、森林樹、季節植物、果樹（アカシア、マンゴー、アカシア・ペンナータ、コーワ、エラオカーパス、パイナップル、タピオカ）など、多岐にわたる植物の木が約 500 本植えられました。

プログラムの最後の年にその効果を測定した結果、森林は過去 1 年間で 7.2 トンの二酸化炭素を吸収し、5.8 トンの酸素を放出できることが分かりました。この活動は、ラヨーン県の生態系と環境の持続可能性に大きく貢献し、長期的には地域社会にも恩恵をもたらします。

 © Fujitsu 2022

外部団体との協業

社会や環境において様々な課題が山積する昨今、企業は、お客様や投資家の皆様へはもちろんのこと、社員やサプライヤー、大小様々なコミュニティなど、あらゆるステークホルダー（利害関係者）に対し責任を持つべきという考え方が国際的に広まりつつあります。

富士通はこの考え方に共鳴し、国際団体や志を同じくする様々な企業と連携しながら、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。

持続可能な発展のための世界経済人会議（WBCSD）への参画

WBCSD (The World Business Council for Sustainable Development、持続可能な発展のための世界経済人会議) は、グローバル企業約200 社の CEO が率いる団体で、ビジネス活動を通じて持続可能な社会を実現することを目的としています。富士通は 2013 年より会員として参画しており、現在、社長の時田が同団体の理事として活動に貢献しています。

WBCSD では、富士通も改訂および邦訳に関わった長期ビジョン「ビジョン 2050: 大変革の時」を 2021 年に公開しています。同ビジョンでは「90 億人以上がプラネタリーバウンダリーの範囲内で真に豊かに生きられる世界」を実現するため、グローバル社会が直面している喫緊の課題に対して企業が果たすべき役割を明確にしています。

この企業が果たすべき役割を理解し、実践していくために、2021 年 11 月に WBCSD のピーター・バッカー プレジデント&CEO より「ビジョン 2050 行動の時」と題し、当社経営層に対して講演いただきました。その様子は、イントラネットを通じて、全社員に向けて動画公開され、経営層から現場まで広くサステナビリティへの理解促進につなげています。

富士通のパーパスは「Vision2050：Time to Transform」と目指す方向が一致しており、引き続き、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

> WBCSD
> Vision2050 特設サイト

© Fujitsu 2022

世界経済フォーラム（WEF）への参画への参画

世界経済フォーラム（WEF: World Economic Forum）は、経済学者であるクラウス・シュワブ氏により設立された非営利財団で、グローバル・シチズンシップの精神に則り、パブリック・プライベート両セクターの協力を通じて、世界情勢の改善に取り組んでいます。そして、あらゆる主要国際機関や経済界、政界、学界、そして社会におけるリーダーと緊密に連携し、世界・地域・産業のアジェンダを形成しています。

毎年 1 月には、スイス・ダボスで年次総会（通称：ダボス会議）が行われ、多国籍企業経営者や各国の政治指導者、知識人、ジャーナリストなど 3,000 名を超えるトップリーダーが一堂に会し、世界が直面する重大な問題について議論しています。

2022 年の年次総会は、2 年半ぶりに対面式で 5 月 22 日から 5 日間の日程で、「歴史的転換点における、政策とビジネス戦略のゆくえ」をテーマに、世界的なパンデミック、ウクライナ情勢、地政学的な課題などについて議論されました。富士通からは、社長の時田と副社長の古田が参加しました。様々なステークホルダーとのトップ同士によるコミュニケーションや社内へのフィードバックを通じて、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

> 世界経済フォーラム（World Economic Forum）

 © Fujitsu 2022